

記念品にて
自宅へ送付

フェース枕マットレスで寝ながら鑑賞の1万メートルの旅

100%安全の深海観光艇

酸素ボンベと食料
備存

海底に錘が衝突すると錘が外れる仕組み

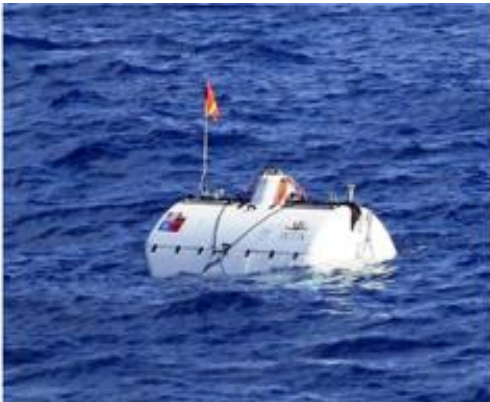
万が一の場合は海中ドローンが救助

「深海観光艇」は世界初の内容が多く、世界が注目し、1万m級の深海はお金に余裕のある人なら誰でもが一度は行ってみたい場所であり、超高額(500万円)でも予約殺到大繁盛間違いなしですので、スタートUP事業で、公募をされたらよいと考えています。

<背景技術>

世界で最も深い海はマリアナ海溝のチャレンジャー海淵は、深さが10920mで、この深度の高水圧では、深海探査船の設計及び運用が極めて困難であり、わずか4回の潜航が達成されたのみです。

(2022年8月31日の記事) 日本周辺で水深6000メートルを超える「超深海」を調査している名古屋大などの研究グループは、名大の道林教授(57)(地質学)が潜水船で小笠原海溝の最深部9801メートルに到達したと発表した。名大によると、60年ぶりに日本人の最深潜航記録を256メートル更新した。



道林教授は13日午前8時頃、小笠原諸島・父島の北約250キロの海域で、パイロットの米国人探検家ピクター・ベスコボさん(56)と2人乗りの小型潜水船に乗船。約4時間かけて水深9801メートルの泥に覆われた海底まで潜航し、窓から地形のほか、深海で生きるナマコやヨコエビなどを約2時間半にわたって観察した。海面に浮上したのは午後5時20分頃

↑の形状でも深海に行けるのだから、スクリューやロボットハンド等の操作系を排除し、完全球形なら行けないはずはありません。

<深海観光艇>

3.3mの完全球体で二重構造にし、外殻はFRP(Fiber Reinforced Plastics: 繊維強化樹脂)にし、中間層はシタクチックフォーム(水圧を吸収する効果)、内殻はチタンにします。(従来の深海底の構造に近く、操作系を排除&完全球形で有利)

深海観光艇は、深海に移動するときはおもりを使い、深海から浮上するときにはおもりを外し、深海底単体の浮力を使うもので、重要なポイントは海底に到達したときにおもりが100%確実に外れる(二重の切り離し装置)ようにすることです。

<世界初の内容>

1. 1万メートルの深海底に安全に人が行けること。
2. **立体角 360 度**のリアルな海底映像が楽しめること。
3. フェース枕を使つての下側（床側）の映像も見られること。
4. マイク&ヘッドホンにより、AI と直接母国語で話せること。
5. 動力がないのに1万メートルも安全に移動できること。

<公募内容>

1. （人を載せない）ミニシア版でのトライアル実証実験の概要
2. 実際に人を4～5人乗せる実物大の深海「観光探索艇」の概要
3. 継続的に儲かる&安全な運営形態の概要

公募してきた団体によるプレゼンの段階で、優秀な3団体を選出し、トライアル実証実験の内容を精査した上で、1. 項に関して東京都が費用を出す。

（↑数億以内と想定）

トライアル実証実験の結果を踏まえ、また、2. 3. 項の見直しのプレゼンの結果、1番優秀なシステムを提案したところに、二台分の実物試作費用及び数回の実験費用を東京都と国とが出して進める。（↑数百億以上を想定）

（一回目の実験では、猫や犬、さるなどを乗せて、前後での精密検査をする。）

ただし、運営が順調に進み、十分な利益がでたところで、東京都及び国に対して返納するものとする。

4～5人搭載の海溝などの深海に行つて帰つてくる「深海観光艇」

（浮力ー重力バランスを調整し、海底へはおもり付きで8時間程度かかり、浮上するときも、おもりを外し8時間程度で浮上するもので、全方位カメラによつて、またAIによる母国語での解説によつて、深海底の旅を楽しむもの）

ー
該観光艇は、1万メートルの超高水圧に耐えられるよう、従来の経験値を踏まえ、球3.3mの「完全球体」にし、外殻はFRP（Fiber Reinforced Plastics：繊維強化樹脂）にし、中間層はシタクチックフォーム（水圧を吸収する効果）、内殻はチタンにします。

ロボットハンドやスクリー等の可動部はありません。

上と下にフックがついており、下のフックはおもりを吊り下げ、上のフックは該観光艇を大型観光船に付帯した大型クレーンで吊り下げるためのものです。

4～5人（太った人が居る場合は人数を減らす）の観光客を乗せた観光艇は、おもりを吊り下げた状態で、大型クレーンで深い海溝などがある海中に投入され、おもりにより海底まで8時間程度かけて到達します。（錘は30kg程度等軽くし、浮力バランスをとります。）

また、海底に到達したら、おもりが外れ（慣性力で自然に外れる）、該潜水艇は8時間程度で浮上します。

海底におもりが衝突するとそこで止まり、該観光艇は落下の慣性力でおもりに軽く衝突し（観光艇の浮力により、強くは衝突しない）、このときにフックが折れ曲がり（折れ曲がる仕様）、フック部が外れ、すぐに該観光艇の浮力によって浮上に向かいます、

もしフック部が外れなかったら、該観光艇のフック部のみを切り離すシステム（一つが故障しても二つ目を作動させることができる二重切り離し装置）によって、該観光艇のフック部が外れて、浮上できます。

さらに二重の切り離し機構も故障してしまった場合、自立AIの海中ドローンに錘をつけて、急行させ、該海中ドローンは錘を離脱したのち、該観光船を探し、フック部を連結し、該観光艇を浮上させます。（100%安全な理由）

注：おもりは、海底から引き揚げたがれきや泥をコンクリートで固めたものを使います。

該観光艇には窓がなく、該観光艇の外周部には、高輝度LED照明とワイドレンズ付帯の超高感度カラーカメラの組み合わせで複数設定され、立体角360度をカバーするよう、また超高水圧に耐えられるよう分厚い透明な**人工サファイア（単結晶アルミナ）の耐圧レンズ**越しに設置され、また、二重構造の内部は全体がTVモニターで覆われていて、AIが各TVモニター立体角360の映像を（球全体がまるでガラスで覆われている感じで）まるで自然に空を見上げたり、海中に顔をつけて覗く感覚で写し出します。

該観光艇の内部には、透明なアクリル製の床が中間に設置されていて、下側も透明なアクリルの床越しに見えるので、まさに360度の海底映像がバーチャルではなくリアルで見られて、周辺に餌をまくことで、多くの種類の異なる魚が集まってくる様子が見とれ、さらに浅いところから超深海迄楽しめるとなれば、世界初&世界最高のエンターテインメントとなるでしょう。

客の各一人ひとりには、寝袋付きフェース枕マットレスがプレゼント（後で記念品として自宅に送付）され、寝そべって上を見たり、顔をフェース枕にあてて、下を見たりします。

また、観光客のひとり一人に、マイクとヘッドホンとが渡され、AI から母国語で解説を聞いたり、いろんな質問ができるようにします。

観光艇の外殻の大きさは 3.3m（内容積の直径 2.7m）は地球の内核のイメージで、1.5m の球体の AI コントロールセンターが存在します。

AI コントロールセンターは複数のワイヤーで突っ張る感じで固定され、匂いのしないトイレ、冷蔵庫、AI 用 PC、二系統バッテリー（バックアップ）、酸素ボンベ等があります。（万が一に備え 1 週間分の酸素ボンベと食料の備蓄あり）

また、AI によって、空調や換気、立体角 360 度の映像形成、深海底で見える生物などの解説を、1 人 1 人に対し希望する言語で解説してくれ、質問にも答えてくれます。（互いに外国人同士が乗艇しても大丈夫）



小笠原海溝の海上から海底まで往復で 16 時間程度かかるので、一台のクレーン船で 10 台～20 台の球 3.3m の深海海溝底を用意し、また複数のクレーン船を用意し、1 時間程度間隔、複数のクレーン船が互いに 1 km 以上離れた海域で、同時に深海観光艇を投入・回収します。

なお回収の時は、小型ゴムボートの回収船を使い、ダイバーがクレーン船のクレーンのロープ巻取り機構につながるロープを浮上してきた観光艇のフックにつなぎます。